

始めに学ぶいろいろな工法

世の中の流れ同様、住まいの工法にも多様化の波がおしよせています。材料や強度によりさまざまですが、基本的な長所・短所を押さえておきましょう。実際に依頼するときは、必ず業者や専門家にアドバイスをを受けることをお忘れ無く。

は の巻

木造工法

柱、梁、筋かいなどの組み合わせで構成する「軸組工法」(在来工法)と「壁式工法」がある。「壁式工法」には2インチ×4インチ(ツーバイフォー)などの規格材を組んだ枠組みに構造用合板を打ち付けて造った床面、壁面などのパネル壁で荷重を支える「枠組壁工法」(ほかにも2×6、4×4もある)や、強化パネルによる「木質パネル工法」がある。

●特徴

素材の重量が軽いため、地盤への負担が小さい。「軸組工法」は狭い敷地や変形敷地でも建てることができる。

●強度

「軸組工法」は、土台、柱、梁などの接合と、筋かいや火打ち梁などで建物を補強。「壁式工法」は、地震など外からの力を壁面で受け止め建物全体に分散させる仕組みで、耐震性に優れる。

●設計の自由度

「軸組工法」は多様な間取りやデザインにも対応でき、大きな開口部を取ることができる。「壁式工法」は洋風デザイン向きだが、開口部の取り方や増改築に制限が発生する場合がある。

住宅メーカー

規格に合えばおトクで
安定感のある家づくり

●メリット

◇長期保証など、アフターケアに強い。
◇依頼から完成までが短い。
◇品質のバラつきが少なく、ネームバリューによる安心感もある。
◇部材なども実績のあるものが使われることが多い。
◇材料の大量入荷により、定価より安く仕入れができるなど、割安感がある。
◇規格のものをそのまま流用できればおトク(規格外のものを書文すると追加料金が発生することもある)。

●デメリット

◆打ち合わせをする人(営業担当者)と設計する人が別なので、意図が伝わりにくいこともある。
◆設計の自由度が低い。

工務店

地域に染いた信頼と
技術がいきる家づくり

●メリット

◇地元に着していることが多いので、評判を確認しやすい。
◇何かと融通を利かせてくれるので、具体的な希望を実現しやすい。
◇良心的な工務店はアフターケアもよく、不具合が生じた際の対処も早い。
◇増改築、改修も依頼しやすい。
◇確かな技術を持つ「棟梁」がいる。
◇担当者が変わることが少なく、建築当時から担当者に長くケアしてもらえる。

●デメリット

◆新しいデザインやアイデアなどについて、積極的な提案が弱い場合もある。
◆工務店によって得手・不得手があるので、希望のタイプを得意としているかどうかの判断が必要。

設計士

建て主の希望をいかした
オリジナルの家づくり

●メリット

◇設計者と直接打ち合わせができるので、意図することが実現しやすい。
◇機能面・デザイン面ともに、個々の建て主に合わせた提案をしてくれる。
◇敷地条件など、問題がある場合にも解決策に強い。
◇複数の施工業者による競争入札を行うことで、適正な価格で工事できる。
◇施工業者と利害関係のない立場で施工監理も行ってくれる(見積もりにも「設計監理料」とあれば監理まで行う)ので、手抜き工事や間違ったのを防止しやすい。
◇建て主の希望や趣味などを理解するために綿密な打ち合わせを行う。

●デメリット

◆ときに芸術性の実用性を上回る場合もある。
◆打ち合わせの回数が多くなったり、着工までに比較的長い時間を要する可能性が高い。
(注)設計士の場合、見積もりに「設計料」という項目が設けられており、そういう項目のないメーカーなどに比べて高いという印象があるが、他者は項目として出していないだけで、一概に「設計士は高い」とはいえない。



リートブロックに鉄筋を入れて補強して壁面を造る「補強コンクリートブロック造」もある。

●特徴

縮みに強いコンクリートと、伸びに強い鉄筋を組み合わせた強固な構造。

●強度

耐震、耐火、耐久、いずれの性能にも優れる。

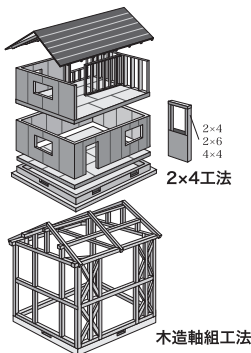
●設計の自由度

「壁式工法」は耐力壁の関係で、新築、増改築ともに制限が生じる。「ラーメン構造」は、柱の位置を統一すれば広い開口部や大空間も実現できる。ただし、柱や梁が室内に出るので気になる可能性が。「補強コンクリートブロック造」は、設計の自由度は低い。

●注意点

強固な分、かなりの重量があるので、それに耐えられる強い地盤が望まれる。また、コンクリートの強度が建物の強度のカギとなるので、きちんとした施工、監理が必要。

鉄筋工法



●注意点

あらかじめ防腐、防蟻、防湿処理は欠かせない。防火工事も必要。「軸組工法」は現場施工のため、施工者の技術が仕上るに大きく影響する。業者のウデを見極めて依頼したい。

●強度

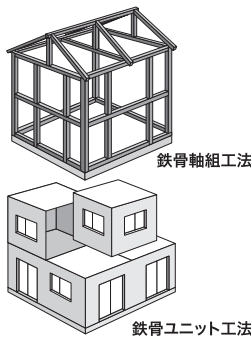
素材は強固で、耐火性にも優れる。構造的には揺れを前提としており、筋かいで強化し、外壁材も揺れに対応できるものを使用する。

●設計の自由度

「ラーメン構造」は柱と梁で構成されるので、大きな空間の実現、間仕切りの変更などがしやすい。

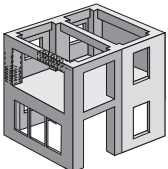
●注意点

温度が一定以上になると鉄骨が曲がり、崩壊するので、耐火被覆が必要。また、錆に弱いので防錆処理も必要。建築にはスペースを要するので、密集地での工事には不向き。



鉄筋コンクリート工法

鉄筋の入った床(スラブ)や壁で造る「壁式工法」、同じく柱と梁で造る「ラーメン構造」、コンクリートパネルで造る「プレキャストコンクリート(PC)工法」などが代表的。コンク



鉄筋コンクリート工法